



子どもたちは幼稚園での生活の流れが分かり、自分の好きな場所や遊びを見つけて遊ぶようになってきました。

幼稚園では、子どもたちが「おもしろそう」「どうして」「やってみたい」と感じる(心が動く)遊びの環境を準備し、教師も一緒に試したり、考えたり、幼児の考えを認めて励ましたり、友達とつないだりする援助を行っています。学園 HP にも掲載したように、幼児が自ら選んで遊ぶことが大切ですが、意図して作っている環境でこの時期に経験してほしいとの願いもあります。そこで、学級のみinnでひとつの遊びに取り組む機会もつくり、「これ、おもしろいな」と気付いたり、「明日もやってみよう」と感じたりしてほしいと考えています。本年度の具体的取組①についてお知らせします。

本年度の具体的取組

- ① 幼児が「やってみたい」と思い、人とつながりながら主体的に遊ぶような環境をつくり援助を行う。
- ② 幼児の思いや姿から成長につながるような義務教育学校との交流を行う。
- ③ 基本的な生活習慣が身に付くように「きらきらカード」の活用や指導を行う。
- ④ 友達や異年齢児と関わり、互いの思いに気付くような「ピア・サポート」の実践を行う。
- ⑤ 昭和地区の自然に触れる園外保育と地域の人との交流を実施する。
- ⑥ 親子で地域(居住地を含む)を知ることができるように地域の行事の参加を促したり園外保育の様子を伝えたりする。



砂場ではそら組が友達と一緒に筒を立てて水をため一気に抜いて水が流れる様子を楽しんでいます



花壇から自分で好きな色の花を取りジュースを作っています。すり鉢、すりこぎ、茶こしの使い方が上手になりました



園内の好きな場所の砂を選んで泥団子づくり。さらさらの砂をかける人、磨く人と役割分担をしています



友達と一緒に虫を探し、飼育ケースに入れて見えています



そら組は、学級活動で鉄棒、ままごと、平均台、学校の総合遊具などに挑戦。体の使い方、自分の体を支える経験をしています



折り返しかけっこ。気候のいいこの時期に体を動かして遊んでほしいです



学級活動の次の日、選んだ遊びの時間にも鉄棒に取り組む子どもたち。同じ場において励まし認める教師の存在が大切です

きりとりせん

読まれた感想・ご意見などありましたら教えてください。園長だより2 ()組 園児名()